



第3回コウノトリ市民研究所企画展

冬の猛禽類

会期 2013年1月20日(日)~2月16日(土)

写真・文 NPO法人コウノトリ市民研究所 高橋 信

コウノトリ市民研究所企画展

「コウノトリが暮らす 豊岡盆地とその周辺の生物多様性」

第3回展示テーマ

「冬の猛禽類」

写真・文 NPO法人コウノトリ市民研究所主任研究員 高橋 信

自然界の中で、鳥は食物連鎖の上位にランクされる生きものです。小鳥は木の実や虫を食べ、カモは水中のプランクトンや植物を食べます。猛禽類（もうきんるい）と呼ばれる鳥のグループは、ほかの鳥を襲って食べます。また、野ネズミや魚を専門に食べるものもいます。

猛禽類は、獲物を捕まえるための鋭い鉤爪（かぎづめ）を持っています。また、肉を引き裂くための強力で尖ったくちばしを持っています。フォークの爪と、ナイフのくちばし。これが猛禽類に備わっている体の特徴です。

猛禽類は大きく2つのグループで構成されます。ひとつがタカの仲間、もうひとつがフクロウの仲間です。多くの猛禽類は高い山や北の地方の住人で、餌がとれなくなる冬の間だけ移動してきます。豊岡盆地の円山河流域は、冬鳥としての猛禽類が集まる場所です。彼らの餌となる小鳥や野ネズミがたくさんいるからです。

猛禽類は精悍な顔つきと美しい羽根模様を持った魅力的な野鳥です。今回の企画展では、冬の豊岡盆地で観察できる猛禽類16種を紹介します。

1. トビ（タカ目タカ科 *Milvus migrans*）
2. ノスリ（タカ目タカ科 *Buteo japonicus*）
3. ケアシノスリ（タカ目タカ科 *Buteo lagopus*）
4. オオタカ（タカ目タカ科 *Accipiter gentilis*）
5. ハイタカ（タカ目タカ科 *Accipiter nisus*）
6. クマタカ（タカ目タカ科 *Spizaetus nipalensis*）
7. オジロワシ（タカ目タカ科 *Haliaeetus albicilla*）
8. ミサゴ（タカ目ミサゴ科 *Pandion haliaetus*）
9. チュウヒ（タカ目タカ科 *Circus spilonotus* Kaup）
10. ハイイロチュウヒ（タカ目タカ科 *Circus cyaneus*）
11. ハヤブサ（ハヤブサ目ハヤブサ科 *Falco peregrinus*）
12. チョウゲンボウ（ハヤブサ目ハヤブサ科 *Falco tinnunculus*）
13. コチョウゲンボウ（ハヤブサ目ハヤブサ科 *Falco columbarius*）
14. フクロウ（フクロウ目フクロウ科 *Strix uralensis*）
15. コミズク（フクロウ目フクロウ科 *Asio flammeus*）
16. トラフズク（フクロウ目フクロウ科 *Asio otus*）

1. トビ (タカ目タカ科 *Milvus migrans*)



猛禽類の中で最も身近な野鳥がトビです。トビは自然界の掃除屋として重要な役割を果たしています。道や野原で死んだ動物を見ることが少ないのは、彼らはその死体を餌として食べているからです。トビは1年中見ることのできる猛禽類です。写真はオオタカ（右）の狩ったキジの残渣を横取りするトビ（左）。

2. ノスリ (タカ目タカ科 *Buteo japonicus*)

兵庫県レッドデータCランク



ノスリは秋の終盤になると豊岡盆地にやってきます。遠目にはトビに似ますが、トビより一回り小さく、前から見ると白っぽいのがトビとの違いです。この写真のノスリは目の色が白っぽい幼鳥です。飛ぶとさらに白い色が目立つので、すぐにカラスが寄ってきて威嚇します。



こちらは成鳥のノスリです。目が茶色くなり、全体的に羽根の色も黒っぽくなっています。ノスリの主食は野ネズミです。電柱や杭の上で待ち伏せして捕まえます。このときにはミサゴが獲ったコイを横取りして食べました。冬の間、ノスリはトビに次いで観察しやすい猛禽類です。

3. ケアシノスリ (タカ目タカ科 *Buteo lagopus*)



何年かおきに飛来するケアシノスリは、野鳥ファンあこがれの野鳥のひとつです。ノスリの仲間ですが、名前の通り、短い毛に足が覆われています。飛来する殆どが幼鳥または若鳥です。河原の上をホバリングしながら地上の野ネズミを探し、見つけると急降下して一瞬のうちにわしづかみにします。



これまで何度かの観察チャンスがあったケアシノスリですが、この個体だけは明らかに違った雰囲気を持っていました。若いケアシノスリの羽根色はアイボリーに近い白ですが、この個体は真っ白でした。顔の周りも黒っぽく、凄味のあるケアシノスリの成鳥でした。

4. オオタカ (タカ目タカ科 *Accipiter gentilis*)

環境省準絶滅危惧

兵庫県レッドデータBランク



六方田んぼ周辺の里山にはオオタカが住んでいます。冬になると餌を求めて田んぼや河原などに姿を現します。オオタカは狩の名手で、古来より鷹狩の道具として大切にされてきました。水辺のカモや、自分よりはるかに大きなサギやキジなども襲って食べます。成鳥は白黒の羽根模様ですが、幼鳥は全体的に茶色っぽい色です。

5. ハイタカ (タカ目タカ科 *Accipiter nisus*)

環境省準絶滅危惧

兵庫県レッドデータBランク



オオタカより小さいタカで、主に小鳥を襲って食べます。成鳥オスは白黒のはっきりした羽根模様ですが、メスは写真のように茶色っぽい姿をしています。鋭い目は遠くまでよく見えていて、獲物を見つけると猛スピードで追いかけて捕まえます。

6. クマタカ (タカ目タカ科 *Spizaetus nipalensis*)

環境省絶滅危惧1B類

兵庫県レッドデータAランク



奥山で少数が暮らすクマタカは、イヌワシに次いで希少な大型猛禽類です。普段は山で小型哺乳類や鳥類などを餌にしていますが、雪で餌が獲れなくなると平地に下りてくることがあります。カモが多く集まる水辺の山腹で、木に止って待ち伏せ猟をします。写真は6月の山中で撮影したもの。

7. オジロワシ (タカ目タカ科 *Haliaeetus albicilla*)

国の天然記念物

環境省絶滅危惧1B類



2012年1月、とても珍しいタカが現れました。トビよりはるかに大きいのですが、高い木のでっぺんにじっと止っていると、トビと見間違えるほどでした。翼を広げるとコウノトリと同じ2mほどもあり、飛翔姿にその大きさを感じます。出石川では水中に沈んでいたサケの死骸を引き上げて食べました。この幼鳥は円山川での越冬が確認されました。

8. ミサゴ (タカ目ミサゴ科 *Pandion haliaetus*)

環境省準絶滅危惧

兵庫県レッドデータAランク



ミサゴは数は多くないですが、トビと同じく、豊岡盆地で一年中観察できるタカです。餌は魚専門で、水面の上空でホバリングしながら魚を探します。獲物を捕捉すると頭から真っ逆さまに落下し、水面すれすれで翻って足から突っ込んで魚を捕まえます。ミサゴの英名は **Osprey** (オスプレイ) です。米軍の輸送機の名に使われて一躍有名になりました。

9. チュウヒ (タカ目タカ科 *Circus spilonotus Kaup*)

環境省絶滅危惧1B類

兵庫県レッドデータAランク



稀に飛来するタカで、当地へは越冬飛来というより渡りの途中に立ち寄る程度です。農地に着地している姿はトビにそっくりです。飛び立つと、足の色、尾羽の形状、翼の模様などでトビとの違いが分かります。顔はフクロウに似た形をしており、空中から地上の獲物の小さな声を聞き分けます。

10. ハイイロチュウヒ (タカ目タカ科 *Circus cyaneus*)



ハイイロチュウヒのメスはチュウヒによく似ますが、腰に太く白い帯が明瞭に出るのが大きな特徴です。低空をV字飛翔しながら獲物を探し、垂直に落下して小鳥などを捕まえます。助走なしに垂直に飛び立つのも、チュウヒの仲間の特徴です。



ハイイロチュウヒのメスは比較的によく観察されますが、名前の由来でもある灰色のオスの飛来は稀です。モノトーンの羽根模様はシックで美しく、猛禽らしい金色の目が際立って見えます。河川敷や田んぼの上をフワフワゆっくり飛んでいたのが、突然視界から消えたかと思うと、また突然地上から舞い上がるという行動を繰り返します。

1 1. ハヤブサ (ハヤブサ目ハヤブサ科 *Falco peregrinus*)

環境省絶滅危惧2類

兵庫県レッドデータBランク



このあたりのハヤブサは日本海に面した断崖が住みかです。厳しい冬の間、彼らは内陸に入って餌を求めます。ハヤブサの獲物は小鳥や中型の鳥です。ハヤブサに目をつけられ、空中に飛び上がったところをハヤブサの強烈なキックを受けて蹴落とされます。



捕まえた獲物は電柱の上などの安定した場所まで運び、羽根をむしって裸にしてから食べます。このときの餌はツグミでしたが、大雪で餌に困っていた様子で、観察者が近くに寄っても逃げることなく無心に食べ続けました。

12. チョウゲンボウ (ハヤブサ目ハヤブサ科 *Falco tinnunculus*)



ハヤブサの仲間では、比較的によく観察できる種です。ハトくらいの大きさ。この写真は成鳥オスですが、コントラストの強い美しい羽根色をしています。越冬飛来するチョウゲンボウの中でも、成鳥オスは出会う確率が低いです。冬は小鳥やネズミを捕まえます。



よく見かけるのがこちらのメスタイプです。わざと「タイプ」と表現するのは、オスの幼鳥はメスとの区別が難しいからです。詳しく見ないとどちらか分からないときはメスタイプとしておきます。この時は、畦の杭の上で狩ったムクドリを食べていました。

13. コチョウゲンボウ (ハヤブサ目ハヤブサ科 *Falco columbarius*)



小型のチョウゲンボウでコチョウゲンボウの名があります。チョウゲンボウに比べ飛来数が少なく、さらに成鳥オスは稀です。チョウゲンボウが杭や木の上で待ち伏せするのに対し、コチョウゲンボウは田んぼの中に下りて餌を狙う傾向があります。



こちらは地味なメスタイプです。メスタイプはチョウゲンボウとの識別に迷うことがあります。餌待ちをしている場所、顔つき、胸の羽根模様の違いなどから判断します。第一印象として、チョウゲンボウの方がスリムでシャープな感じがします。

14. フクロウ (フクロウ目フクロウ科 *Strix uralensis*)



タカは昼のハンターですが、同じフィールドの夜のハンターがフクロウの仲間です。フクロウは森の中にいるイメージがありますが、私たちのごく身近に住んでいます。雪で餌に困ったときなど、日中の河原でもフクロウの姿を見かけることがあります。昼間はじっと動かずに眠っています。

15. コミミズク (フクロウ目フクロウ科 *Asio flammeus*)

兵庫県レッドデータCランク



コミミズクは冬になるとやってくる小型のフクロウです。夜行性ですが、天気の悪い日中や夕暮れに活動するのを観察できます。木や杭に止って地上の野ネズミを待ち伏せします。雪の下に隠れた野ネズミも音だけで探し当て、雪の中に足から突っ込んで獲物を捕らえます。



コミミズクの飛翔姿は、まるで丸太に翼が生えたようです。ゆっくりしたストロークで優雅に飛びます。下から見ると白い姿がよく目立ち、獲物のネズミを抱えている場合は、横取りを狙ってトビやカラスに激しく絡まれ、せっかくの獲物を盗られてしまうことが多いです。

16. トラフズク (フクロウ目フクロウ科 *Asio otus*)

兵庫県レッドデータCランク



コミミズクと同じく、冬になるとやってくるトラフズク。コミミズクと同じフィールドで野ネズミを餌にします。コミミズクより一回り大きく、耳に見える飾り羽根が長いのが特徴。またコミミズクの目が黄色なのに対し、トラフズクは橙色です。コミミズクに比べて飛来数が少なく、当地で雪が深くなると雪のない地方へと移動してゆきます。



トラフズクは数羽の群れで越冬飛来する傾向にあります。日中の活動を行うことはほとんどなく、重なった枝の中で上手に身を隠して夜が来るまでじっとしています。飛翔姿はコミミズクとよく似ていますが、コミミズクほど下面の白色が目立ちません。